



# 米国の脱退表明のインパクト(3)

- 米国内の反応・動き: ビジネスの動き
  - テスラのイーロン・マスクCEOやウォルト・ディズニーのロバート・アイガーCEOがホワイトハウスの助言機関を辞任
  - ジェネラル・エレクトリック(GE)、ゴールドマン・サックス、グーグル、アップル、エクソン・モービルなども残留支持
  - ブルームバーグ慈善団体: 1500万ドルをUNFCCCに提供

# We are still in

- We are still in (私たちは脱退していない)
  - トランプ政権の脱退表明を受けても、パリ協定の目標を達成するための気候変動対策を引き続き支持するという表明
  - <http://www.wearestillin.com>
  - 都市・自治体
  - 州
    - カリフォルニア、コネチカット、ハワイ、ニューヨーク、ノースカロライナ、オレゴン、ロードアイランド、バージニア、ワシントン
  - 高等教育機関
  - ビジネス・投資家 (年商1億ドルまたは50億ドルの資産を管理する事業者・投資家から抜粋)
    - Adidas, Adobe, Airbnb, Allianz, Amazon, Apple, Aspen Skiing Company, Ben & Jerry's, Bloomberg, CalPERS, CalSTRS, Campbell Soup Company, Clarins USA, Danone, Dropbox, EDF Group, The Estee Lauder Companies, Evian, Facebook, Gap, Google, Hewlett Packard Enterprise, HP Inc., IBM Corporation, IKEA, Intel, L'Oreal, The LEGO Group, Levi Strauss & Co., Mars, Microsoft, Munich Re, National Co+op Grocers, Nestle U.S., Netflix, Nike, The North Face, NRG Energy, Oregon State Treasury, Patagonia, Paypal, Pearson, Royal DSM, Starbucks Coffee Company, Tesla, Tiffany & Co., Timberland, Toshiba America Business Solutions, Twitter, Unilever, Virgin Management, Volvo Group North America, Walmart, Western Union, Yahoo!,

# America's pledge (アメリカの誓約)

- America's pledge (アメリカの誓約) の立ち上げ (2017年7月12日)
  - カリフォルニア州知事ジェリー・ブラウンと、元ニューヨーク市長マイケル・ブルームバーグが立ち上げ
  - パリ協定と連携して気候変動対策をとる州、都市・自治体、ビジネスほかの対策をとりまとめ、定量化して示す
  - 各主体の対策の水準を引き上げ、米国がパリ協定の下での米国の目標 (2025年に2005年比26-28%削減) 達成を支援できることを透明性のある形で示す
  - ブラウン知事とブルームバーグは、米国の州知事、市長、ビジネスリーダーらとともに、COP23で、こうした各主体の取り組みを示す
  - <https://www.americaspledgeonclimate.com>

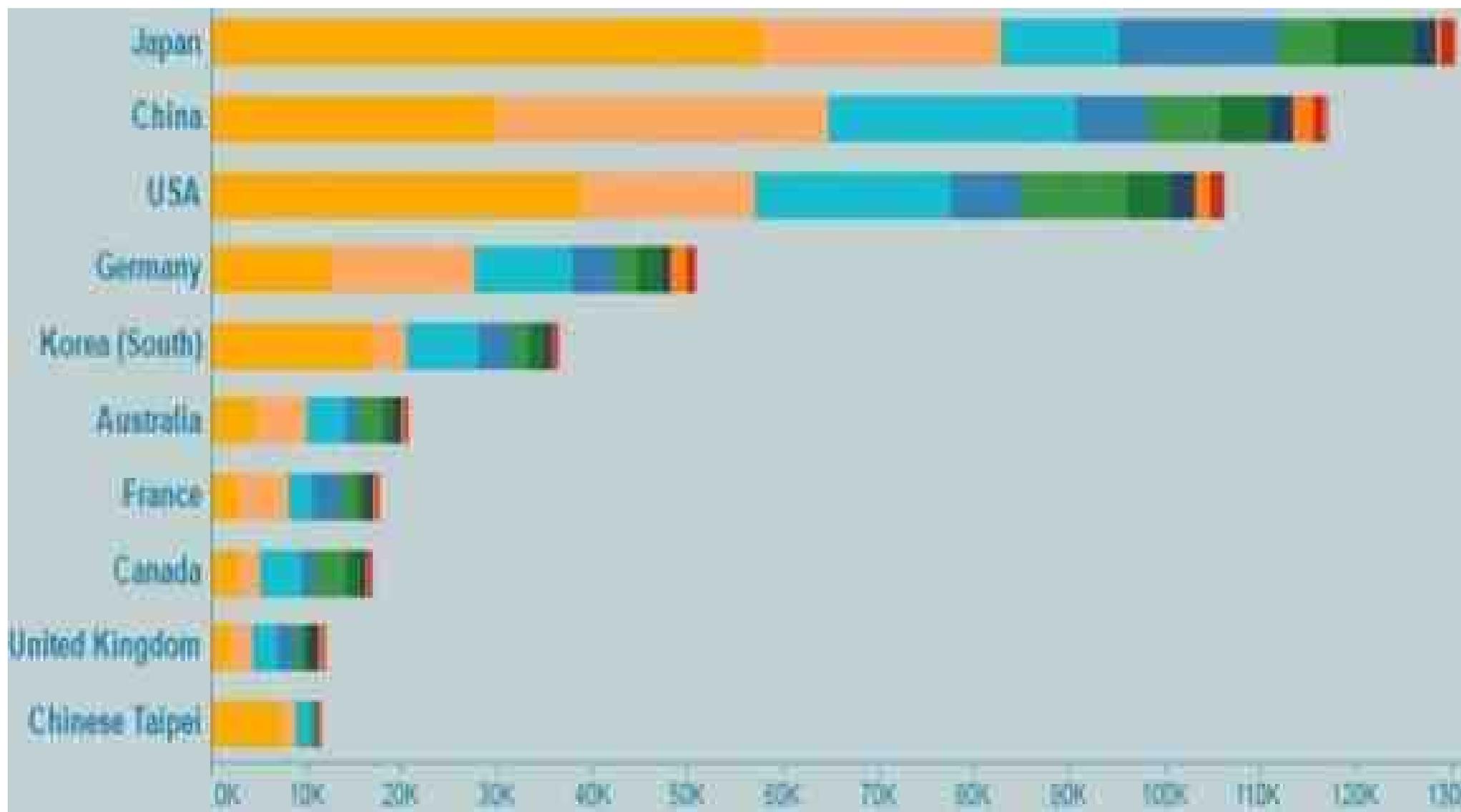
# むすびにかえて(1)

- パリ協定を契機に世界は「脱炭素」「ゼロエミッション」に向かう
- 技術革新と政策による普及、それによってもたらされた再エネのコスト低下に主導された世界的なエネルギー転換
- 主体的で先導的な自治体とビジネスの動き
- こうした世界の流れは、ビジネスにとってリスクでもあり、チャンスでもある
  - 気候変動リスクへの対応に関する投資先への投資家の目
    - 気候変動リスクの情報開示の動き
      - 社会貢献活動をこえて、ビジネス本体のリスクと機会として取締役会と経営者が確認し、評価することが求められる
    - サプライチェーン全体が対象に:取引先へのインパクト
  - 拡大する市場へのビジネス戦略
- こうした動きをふまえた国・自治体の政策が必要

# むすびにかえて(2)

- **トランプ政権による脱退表明のインパクト**
  - パリ協定を軸に対策を進める諸国、自治体、ビジネスの意思は明確
- **パリ協定のルールブックづくりは、米国の立場の不透明さにもかかわらず、テクニカルに進む。ただし、COP24での合意には、作業の相当の加速化が必要**

# 再エネ特許数 (IRENA, 2016)



注: 太陽光/太陽熱(黄色、濃淡2種類)、風力(水色)、水力(青色)、バイオ/廃棄物燃料(緑色、濃淡2種類)、海洋(紺色)、太陽光+太陽熱ハイブリッド(黄色)、地熱(赤色)、ヒートポンプ(桃色)

# 再エネ技術特許トップ20社

Rank 2006-2011	Technology Owners	Country/Region of Company HQ	Technology Area
1	LG	Republic of Korea	SolarPV
2	Mitsubishi	Japan	SolarPV
3	General Electric	USA	Wind
4	Sharp KK	Japan	SolarPV
5	Panasonic	Japan	SolarPV
6	Samsung	Republic of Korea	SolarPV
7	Siemens AG	Germany	Wind
8	Mitsubishi	Japan	Wind
9	Kyocera Corp	Japan	SolarPV
10	Konica Minolta	Japan	SolarPV
11	Fujifilm Corp	Japan	SolarPV
12	Hitachi	Japan	SolarPV
13	Vestas Wind Sys As	Denmark	Wind
14	Hyundai	Republic of Korea	SolarPV
15	Sumitomo	Japan	SolarPV
16	Toyota	Japan	SolarPV
17	Industrial Technology Research Institute	China	SolarPV
18	Sony Corp	Japan	SolarPV
19	Dainippon Printing Co Ltd	Japan	SolarPV
20	Suzlon Energy (REpower Systems)	India (Germany)	Wind

ご清聴ありがとうございました。  
Thank you so much for your attention.

高村ゆかり (Yukari TAKAMURA)  
e-mail: [takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp](mailto:takamura.yukari@g.mbox.nagoya-u.ac.jp)